

買い物異聞

23 期ふみの会 舟越辰緒

煙草を買いにコンビニに寄って「L」というのをくれと言ったら店員が「L」でもなん種かあるのでそのうちのどれかと聞いてくる。つまり同じブランドでも表示してあるニコチンの含有量がそれぞれ違うのでそれを指定しろと言うのだ。箱をよく見るとニコチン何 mg、タール何 mg と明記してある。

最近では煙草一つ買うにしても面倒臭いことになってきている。昔はそんなことはなかった。

ちなみに、私は現役時代は日に 20 本程度消費する喫煙者だったがこの数年は数本になっている。

それでも消費金額は数倍以上だ。そのうちに例えばお酒を買いに行ってもアルコール度数を指定するようになるかもしれぬ。

「〇〇マサムネ」をくれと言ったら、店員が「アルコール何度のものがいいか」を聞くかもしれない。「16 度かな」と言うと「それはありませんが 15 度半ならどうですか」などと問答しなければならないともかぎらない。焼酎でも「24 度と 26 度とどちらにしますか」「そうだな、まあ 26 度」「甲類と乙類の混合割合のお好みは」「うーん…」なんてね。

メーカーも問屋さん、小売店さんも大変である。なに、コンピュータがあるから大丈夫といっても現物を動かす手間は必ず増大する。

それらを良しとする意見が勝つのだろうか。もう勝負はついているのか。

